

トラック輸送における長時間労働抑制 に向けたパイロット事業 中間報告

平成28年12月12日

日本PMIコンサルティング株式会社

目 次

I	本事業における対象集団の概要	・・・ 1
II	検討会・事業場訪問を踏まえた問題点・課題の整理	・・・ 4
III	現状の問題・課題を踏まえた今後の方向性	・・・10
IV	今後の方向性を踏まえた取組内容	・・・12
V	今後のスケジュール	・・・16

I 本事業における対象集団の概要

対象集団の概要

発荷主

孺恋村
農業協同組合

農産物(キャベツ)輸送

吾妻高原野菜共同輸送所

(株)群馬グリーン配送

着荷主

市場等

(市場の取引先である小売
店等へ直送ケースあり)

※着荷主は対象集団として参加していない



(キャベツ畑)



(キャベツ輸送用の車両)



(市場)



(保冷库における積み込み作業)



(保冷库における積み込み作業)

- 孺恋村では主に7月から10月にかけて出荷される夏秋キャベツの出荷量は日本一を誇り、この期間に集中的に輸送されている
- 発荷主からの輸送先は主に市場であるが、小売店等に対して直送するケースもある
- JA孺恋村より吾妻高原野菜共同輸送所に発注がなされ、約10事業者以上の運送事業者が従事。

Ⅱ 検討会・事業場訪問を踏まえた 問題点・課題の整理

1. 現状の実態を踏まえた問題・課題の整理

○ 現状の問題点として、主に3つの点があげられる。出発前の積み込み作業においては、①JA孺恋村のパレットから手積みで市場用パレットへの積替えに時間を要していること、到着後の取卸し作業においては②小売店への直送時において小売店指定のラックに取卸し作業があり、附帯作業の拘束時間が長時間化していること、③市場への輸送では保冷庫がない場合、取卸し指定時間まで待機が発生することがあげられる。

類型	ヒアリングによる実態把握	方向性
出発前の 積み込み作業等	○積み込み時において、JA孺恋村のパレットが64個積みで、積み込み時に市場のパレットに手積みで積替える作業を実施している。 ○生産者の段階から、市場のパレットを利用することが想定されるが、現状では倉庫、輸送用トラクター、バキューム等が64個積みパレットに即しているため、パレット変更は短期的には極めて困難である。	○パレットの変更による改善は、現状では極めて困難であるため、パイロット事業の対象とできない。 ○引き続き、パレットを含めた積み込み作業の効率化を検討する。
輸送業務	○出発から到着までの輸送においては、改善基準を踏まえ適切な時間設定がされているため、特段問題は発生していない状況にある。 (主に関東エリアを到着地とした輸送に限定して検討)	○パイロット事業の対象としない
到着後の 取卸し作業等	○小売店への直送時、到着後の取卸し作業で、小売店指定のラックに積替えるが、当該附帯作業は無償で、拘束時間も長時間化する要因となっている。 ○輸送先の市場において、保冷庫がない場合に待機時間が発生している。市場により長短あるものの、取卸し時における待機時間の長時間化につながっている。	○取卸し先から補助作業員を出してもらい、作業時間を短縮化する。 ○市場の待機時間短縮化に向けて保冷庫の設置等の課題はあるものの、まずはヒアリングを実施し、パートナーシップを構築するための取組を実施する。

2. 出発前の積込み作業等について①

○キャベツの積込み作業時間の短縮化に向けた検討

積込み作業 パレット の実態

- ・生産者がJA婦恋村のパレット(底面8箱)に64箱を積み、それを各集荷場にトラクターで運ぶ。集荷場を大型車で集配して、当該のキャベツの段ボールを保冷库に輸送する。保冷库では検収、混載がある場合には、分別整理を実施している。
- ・トラックに積込みする際、パレット規格(縦・横の長さ)が相違するため、JA婦恋村のパレット(底面8箱、64個)から市場用のパレット(底面6箱、50個前後)に手積みで積載している。リフトマン、補助作業員がいるため、所要時間は30分から60分程度で完了。
- ・JA婦恋村のパレット規格は、真空冷蔵施設(バキューム)、保冷库、生産者の持込トラクターの荷台等のハード面がJA婦恋村のパレット規格となっており、パレット変更には多額のコストを要し、パレットの見直しは困難となっている。



(JA婦恋村のパレットによる荷姿)



(パレット形状に即した保冷库の棚)



(婦恋村のパレット→市場用パレットへの積替え作業)

問題点

- ・仮にJA婦恋村のパレットを市場に持込むと、返却されない可能性があるため、市場で幅広く利用されているパレットに手積みで載替える作業を実施しなければならない。また積載率が低下し、輸送効率に問題が発生する。
- ・手積による積込み作業であるため、運転者への作業負担が大きい。

2. 出発前の積込み作業等について②

・以下の実証実験の方向性については、実態を踏まえ、実行可能性が低いことが判明。

実証実験 方向性①

○着荷主：関東圏の市場の場合：

- ・実証実験として、毎日輸送している市場又は直送先に依頼し、JA孺恋村が持ち込んだパレットを指定場所に保管してもらい、翌日全て持ち帰る。パレットはJA孺恋村の所有物とわかるように名前を入れる。
- ・手積み作業を無くすために、JA孺恋村のパレットをフォークリフトでトラックに積込みする。荷台の大きさも考慮し、64個積みパレットが入る車両に限定。
- ・実証実験であるため、着荷主は市場に1箇所に協力してもらう。
- ・パレットの整理場所を確保できる市場で、協力可能な市場を探索。
- ・実証実験では、パレットの損失率を把握。なお、パレットはレンタルパレットの利用を検討。

【実施困難な理由】：孺恋村のパレットでは積載率が低下し、積載可能なケース数が減少するため。

実証実験 方向性②

○着荷主が九州・四国・中国圏の場合

- ・改善基準告示の遵守が厳しい到着地のみ、50個積みのパレットに64積みパレットから作業員が前夜までに準備しておき、フォークリフトで運び入れるだけにする。運転者の附帯作業をゼロにし、附帯作業時間を削減。
- ・実証実験であるため、毎日1台分に限定。

【実施困難な理由】：長距離輸送分は主にバキューム施設での積込みとなるため。

実証実験 方向性③

○複数品種の発注の場合

- ・運転者は複数の保冷库を巡回して荷積みするケースがあるため、移動時間、待機時間等を要している。前日段階で積荷を予め用意し、複数巡回せずに済むように段取りを実施。
- ・複数品種の受注については、締め切り時間を早めに設定。複数品種の貨物は、前日夜までに方面別に、パレットへの積合せの準備を実施。

【実施困難な理由】：保冷库には予め準備した積合せしたパレット保管する余裕スペースがないため。

3. 輸送業務について

- (株)群馬グリーン配送では、自社車両の車両繰りの効率化を高めるため、主に関東エリアを到着地とした輸送に従事し、長距離（主に500km以上）輸送を実施していない。そのため、嬬恋村から関東地域への輸送に限定して検討を実施した。（長距離輸送は、他社が従事）
- 出発から到着までの輸送業務においては、改善基準を踏まえ適切な運行計画が組まれ、連続運転時間、休憩時間等の設定も適切になされているため、問題は発生していない。



- 運行時における改善基準は遵守されており、問題となっていない。
- 運行時間に影響を与える取卸し時の待機時間の削減に向けた取組に重点を置く必要がある。
- 以上から、出発後から到着までの運行業務は、パイロット事業の対象としない。

4. 到着後の取卸し作業等

現状の問題点

○「市場」への輸送において、市場に保冷库がない場合、待機時間が発生



取組の課題

○市場との話合いの場を設定

○最初は市場との関係づくり、パートナーシップ形成に取組み、段階的に複数の市場との関係づくりを展開



本年度 実施内容

○着荷主と意見交換し、改善に向けたパートナーシップを形成

○着荷主における取卸しの問題・課題を検討



次年度以降の取組

○本年度、話合いの場を設定し、来年度以降、着荷主とのパートナーシップによる改善への取り組みを本格的に実施（市場での待機時間削減、小売店でのラック積替え作業の見直し）

Ⅲ 現状の問題・課題を踏まえた 今後の方向性

実態、問題・課題を踏まえた今後の方向性について

労働時間短縮に向けた発荷主における問題・課題について

○これまでJA孺恋村、株式会社群馬グリーン配送においては、長期間にわたる良好なパートナーシップの下、継続的な改善活動を実施してきており、積込み作業における附帯作業時間及び待機時間の削減については、約2ヵ月の短期間で実施可能な事項が見出されなかった。課題としては、JA孺恋村が利用するパレットから出荷用パレットへの積替え作業や、キャベツの品種、大きさ等により、足りない品種等があれば、複数個所での積込み作業が発生することがあるとの指摘があったが、短期間では取扱いできない課題となっている。

○発荷主側での「積込み作業」における問題は少なく、効率的作業が実施されている。本年度、パイロット事業の準備期間が短く、発荷主におけるパイロット事業の実施は困難であった。そのため、以下のように現状の問題・課題を踏まえ、以下3つの方向性を検討する。



方向性①：着荷主とのパートナーシップの形成

○ヒアリング調査の結果、発荷主側には問題はほとんどなく、着荷主側に解決すべき問題・課題が多いことが判明した。着荷主側の問題解決には、着荷主との改善に向けたパートナーシップ形成が必要であるため、本年度から話し合いの場を確保し、パートナーシップ形成に向けた取組を展開する方向性を検討する。

方向性②：着荷主における問題・課題の深堀り

○着荷主である「市場」では保冷库を保有していない場合、待機時間が発生する。さらに、小売直送では指定ラックへの積込み作業を指示されるケースがあり、業務改善だけでなく、書面化内容の見直しとともに、附帯作業料、車両留置料の収受ができないか等、課題を検討する。

方向性③：発荷主と運送事業者による良好なパートナーシップによる好事例のまとめ

○JA孺恋村と㈱群馬グリーン配送におけるこれまでの業務改善への取組には、多くの好事例があり、他の事業者にも参考となる貴重な取組例である。例えば、リフトマン・作業員の最適配置、途中取卸しがある場合の運賃設定、長距離輸送の場合の積込み時間の設定、保冷库で待機が発生しない秩序作り、品種別の検収作業と分別の徹底、生産者の協力体制など、多くの改善作業を地道に積み重ね、積込み時の待機時間、積込み作業時間の短縮化を実現している。これらの事例を整理する方向性を検討する。

IV 今後の方向性を踏まえた取組内容

1 今後の方向性を踏まえた取組内容

○今後の方向性を踏まえた本年度の取組内容は、①着荷主とのパートナーシップの形成、②着荷主における問題点・課題の深堀りによる対処方策の検討、③発荷主と運送事業者による良好なパートナーシップによる好事例のまとめ作業があげられる。

①着荷主とのパートナーシップの形成

○現状では、着荷主における貨物の取卸し時に、待機時間、附帯作業に係る拘束時間の長時間化の問題が存在する。これらの問題を解決するには、最初に着荷主とのパートナーシップを形成することが、今後の改善を実施するために重要な取組事項である。

②着荷主における問題・課題の深堀り

○最初は、重要な位置づけとなる大手事業者(市場)との話合いの場を設定し、現状の問題・課題の検討を実施する。

○着荷主との話合いを踏まえ、本年度中に着荷主とのパートナーシップ形成により取組み可能なパイロット事業についても合わせて検討する。

③発荷主と運送事業者による良好なパートナーシップによる好事例のまとめ

○本事業における発荷主及び元請事業者においては、盤石な信頼関係が形成され、以前から改善活動を着実に実施してきた経緯があり、優良な事例が多い。そこで、他の農産物輸送をする集団の参考に供するために、対象集団の協力を得て当該好事例をまとめる。

①着荷主とのパートナーシップの形成、②着荷主における問題・課題の深掘りの取組イメージ

課 題

- ✓ 保冷库を有しない「市場」では気温の下がる夕方か夜間の時間が指定されるため、取卸し時の待機時間が恒常的に長くなっている
- ✓ 大口の小売店に直送するケースがあり、ラックへの取卸しを指示され、当該附帯作業時間が長くなっている（附帯作業についての契約条項及び料金設定がない）

- ◆ 本年度、着荷主へのヒアリング、実態調査を実施し、長時間労働抑制に向けた基盤づくり（着荷主とパートナーシップの構築）を実施する。次年度には、パートナーシップを基盤に、保冷库のない市場での待機時間、大口小売店での附帯作業時間を削減する。

< 取組のイメージ >

これまでの取組み内容

- 着荷主に対しては、やんわりと改善を依頼
- 着荷主との良好な関係を維持するために、無理な依頼はできない
- 着荷主と話合いができるパートナーシップが十分に構築されていない

平成29年度 取組み内容(想定)

- 着荷主（市場）における待機時間の削減
例）保冷コンテナの設置、保冷シャーシー等の活用等
- 大口の小売店への直送における附帯作業
例）附帯作業の有償化、作業員をヘルプで出してもらい、ラックに先積み、附帯作業の料金収受への向けた話合い

平成28年度 成果イメージ

- 着荷主の理解を得て、改善目標を共有化し、待機時間削減に関する指標設定し、業務改善活動を共同的に実施するための関係を構築
- 次年度6月からのキャベツ輸送に向けた取組方策、スケジュール、ロードマップを着荷主と共有化

平成29年度 成果イメージ

- 保冷库のない市場のうち、1～3程度の市場において待機時間を短縮化する
- 大口の小売店における取卸し時間を約90分から45分に半分程度に短縮または無償による附帯作業の一部の有償化する

③発荷主と運送事業者の良好なパートナーシップによる好事例まとめ取組イメージ

①生産から出荷までの業務プロセスの効率化

- ・生産者はキャベツをサイズ別に段ボールに詰め、JA 孺恋村のパレット(底面8箱)に64箱を積み、それを各集荷場にトラクターで運ぶ。各集荷場を大型車で巡回し、パレットごと集配、パレットを保冷库に輸送、検品、仕分け作業を速やかに実施する体制が整備されている。保冷库では検収、混載がある場合には、分別整理が実施されている。
- ・上記一連の業務では、段ボール、パレットの規格の統一化、取扱ルールが明確で、迅速に作業実施できる体制、業務手順が「見える化」され、整備されている。

②積み込み作業の効率化(時間短縮化)

- ・積み込み時には、伝票に即してリフトマンが保冷库からトラック車両にパレットを横付け。ドライバー及び補助作業員が手積みにより積載し、数量・品種を検品。これにより、正確性が確保され、ドライバーの作業負荷が軽減し、安全運行にも寄与している。
- ・時期にもよるが、数時間に50台近い車両に積み込みを完了させ、出発する必要性があるため、積み込みのための待機時間が発生しない仕組みが構築されている。

③車単位の運賃設定

- ・これまでケース単位で運賃設定されてきたが、複数個所で取卸しする場合、原価割れになるケースがあった。そこで、高い輸送品質を確保するため、運送事業者の運送原価を踏まえ、車単位による運賃設定に見直した。
- ・例えば、孺恋村を出発し、途中埼玉、東京、神奈川の複数個所で取卸しする場合、孺恋村から最終到着地までの車単位の運賃を基礎に設定されている。その結果、発荷主側は積載率を高める取組みを徹底し、さらに効率的な輸送が実現されている。

④品種に応じた仕分け作業の徹底

- ・積み込み作業を効率的に実施するために、キャベツの品種別、大きさ別に仕分けが徹底されている。
- ・積み込みの前日に搬入されたキャベツは、翌日の積み込み作業の効率化するため、品種・大きさ別に置き場が定められ、パレット(64個)単位で保冷库で保管される。
- ・積み込み作業の効率化に向けて、前日の段取りは徹底され、改善が積み重ねられている。

V 今後のスケジュール

今後の取組スケジュール

○ 現状では、「①着荷主とのパートナーシップの形成」に向けて話合いの場を設定し、「②着荷主における問題点・課題の深掘り」についても実施し、着荷主との共有化を図るところである。「③発荷主と運送事業者による良好なパートナーシップによる好事例のまとめ」についても、ヒアリング内容を整理し、まとめ作業を実施。

○ 今後の取組スケジュール

平成28年12月～平成29年1月

着荷主とのパートナーシップの形成への取組みを実施

2月頃 本年度の成果のとりまとめ

関係者との意見交換

3月頃 群馬県地方協議会の開催予定